

子どもの名づけに関する大学生調査からの示唆 —家庭科「家族の一員」を具現化する手がかりとして—

金 娟鏡*・大園舞香**

(2020年10月21日 受理)

Suggestions from a University Student Survey on Child-Naming : Clues for Practicing One of the Family Member in Home Economics

KIM Yeonkyeong, OZONO Maika

要約

本研究では、将来親になりうる大学生を対象に、子どもの名づけにおいて重視する側面を名づける側の性別および自分の名前に対する受容評価との関連から検討した。その結果、子どもの名づけにおいて何を重視するかは、名づける側の性別および自分の名前に対する受容評価の両方とも関連していることが明らかになった。他方で、子どもの個性的な名前に対する考えは、名づける側の性別ではなく、自分の名前に対する受容評価のうち【ホモフィリー】と密接に関連していることが新たに示された。最後に、本研究で得られた結果は「家族の一員」の意味を学ぶ際の具体的な手がかりとして、学校教育「家庭科」の授業において活用できる可能性が示唆された。

キーワード： 名づけ、性別、名前アイデンティティ、大学生、家庭科

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 准教授

** 鹿児島県立串木野養護学校 教諭

1. 問題と目的

名前¹は、自分と他者を区別させ（松王，1990）、その人らしい固有性を示す大切な情報の一つである。日本では、古くから子どもが生まれて7日目を迎える節目の日までにその子の名前を決め、家族や親せき、地域の人々に披露して祝う命名式が行われていた。近年では簡略化されているものの、生まれてきた子どもが固有の名前をもって、新たに「家族の一員」となったことを家族内外に知らせる意味でも広く親しまれている。国際的には、1989年に国際連合総会で採択された「子どもの権利条約²」において、「子どもは、出生の時から名前をもつ権利³」を有すると記され、名前は生まれながらにして当然に保障されるべき基本的な人権であると、国際社会の共通認識が図られている。ただ、生まれたばかりの子どもは自ら自分に名前をつけることができないため、子どもの名づけは、親をはじめとする養育者の重要な責任となるのはいうまでもない。

しかしその一方で、場合によっては改名も許されるが、名前は一生にわたって続くものであるが故に、多くの親は生涯の名乗りを見越し、何を重視するかに悩みながら名づけるのが実態（高本，2003）である。ウンサーシュッツ（2017）は、他国（アイスランドやタジキスタン）に比べた際の日本の名づけの特徴として、新しい名前の創造に柔軟である点を指摘している。法律上、名前に用いられる漢字は、常用漢字と人名用漢字に留めなければならないが、それをどのように読むかという読み方には制限がない。音訓の組み合わせや熟字訓、当て字的な読み方でも認められる。また、漢字以外に平仮名・片仮名・踊り字を用いることも可能であり、その選択肢の豊富さがかえって多くの親に悩みをもたらしているとも考えられる。

田中（2001）は、地名の多くは眼前に山野、沼沢、坂、峠などが存在し、その形状の特性やそれに関わる過去のさまざまな伝承を解釈し、抽象化したものであること、多くの動・植物名も同様であることから、これらは事物の形状の特性や解釈が名づけにつながるとしている。ところが、他からの弁別という名づけ一般の目的では同じであるが、人名の場合は眼前に生まれた子がいたとしても、その形状の特性を中心とするのではなく、名づける側の子どもへの期待や願望を込めたものが多数を占める。こうしたことから、人名と地名や動・植物名とは名づけへの態度や重視するものが明らかに異なると結論づけている。

また、時代の経過とともに、名づける側の子どもへの期待や願望は変わっていくことが報告されている。たとえば、昭和の戦時中には「勇」「武」「勝」の字を用いて、子どもと時局への期待を託して名づける傾向がみられたが、平成に入ってから男児には「翔」「輝」「陸」を、女児には「明日」

1 名前は、その人が所属する集団を示す名前（姓名の「姓」）と姓に対するその人個人の呼び名を示す名前（姓名の「名」）で構成される（宿利，2017）。本研究ではその人を個人として識別しやすくする呼び名に焦点を当てるため、名前のうち、所属集団を示す「姓」ではなく、「名」に注目する。

2 United Nations Convention on the Rights of the Child（UNCRC），児童の権利に関する条約とも呼ぶ。

3 Children have the right to a legally registered name.

「彩」「優」の字を用いて、明るい未来とナチュラル志向への願いを込めて名づける傾向（田中，2001）がみられるように移り変わったという。

名づけの移り変わりに関連して、佐久間（1963）によれば名前には時代色があり、たとえば「一子」「一夫」といった名前や生まれ順を表す漢数字の入った「一二郎」「一三郎」といった名前が激減してきているなど、名前の接尾辞の止め字や文字数においてもその変遷がみられることも報告されている。これらの背後には、少子・核家族化に伴い、祖父母世代が子ども（孫）の名づけにほとんど関与しなくなっていること（ウンサーシュッツ，2017）や名づけの対象となる生まれてくる子どもの数が少なくなっていること、そのため、子ども一人ひとりの名づけにおいて、個性に重きを置く傾向が高まっていること（小林，2009）が指摘されている。

特に、名前における個性について、平山（2011）は民間企業（明治安田生命）により公開された加入者に生まれた子どもの名前データのうち、1965年から2009年までを抽出し、各年代ごとのベスト10に挙げられた名前を中心に、①漢字そのものが以前とは異なる、②漢字に対する読みが多様化している、③漢字同士の結びつきが変化している、④音に対する漢字表記の種類が多様化している、といった4つの観点から検討した。その結果、①から④に符合する名前が増え始め、名づけの傾向が大きく変わったのは90年代からで、この時期からありふれた名前を避けようとして、個性的な名前が目立つようになったと分析している。このような個性的な名前は、俗に、今時の名前として「キラキラネーム」「DQNネーム」とも呼ばれることも多い。「キラキラネーム」という呼び方がキラキラと輝いて、素敵というニュアンスを帯びているのに対し、「DQNネーム」という呼び方はヤンキー、世間からあまり賢いとされていない若者を指すインターネットスラングに由来し、非常識というニュアンスを帯びている（小股・乾・高島，2017）という。これらの呼び方から垣間見えるように、個性的な名前に対しては賛否両論があり、未だに議論が続いている。

以上より、本研究では子どもの名づけにおいて、名づける側が何を重視して子どもに名前をつけるのか、また近年の個性的な名前をどのように捉えるのかに焦点を当てて検討を進める。この際、名づけを終えた親ではなく、近い将来親になりうる大学生を対象とすることで、名づけられた者から名づける者へと世代間伝達の視点を含め、今後の動向把握に役立つ知見を得ることを第1の目的とする。

また、本研究では名づける側のどのような要因が子どもの名づけに関連しているかを明らかにすることを第2の目的とする。先行研究では、子どもの性別が名づけに密接に関わっていることが報告されている。たとえば、半田（2013）は名づけに関する書籍が男女別に刊行されていることに注目し、それらに用いられた漢字を分析した結果として、男児には自分の力で人生を切り開いていこうとする力強さ、積極性を表すものが多かったのに対し、女兒には人々に愛され、裕福で豊かな一生を送ることを表すものが多く、子どもの名前には性別による相違が顕著化されやすいことを指摘している。同じく大山・纒坂・鎌田・元木・車（2011）も、大学生の名前の調査を通して、硬い印

象を与える語音は男子学生に多く使われたが、柔らかい語音は女子学生に多く使われたといった性別による相違を報告している。しかし、子どもの性別への関心に比べると、名づける側の性別が名づけにどのように関連しているかについてはあまり取り上げられておらず、本研究では名づける側の性別を関連要因として取り上げる。

もう一つ、荻原(2015)は、名づけにおいて、名づける側の心理的要因を検討する必要があるとし、これによって名づけの過程や動機を明らかにすることができると展望している。そこで本研究では、名づける側が自身の名前をどのように受け入れ、自己の中に位置づけているかを関連要因として取り上げる。宮沢(1989)は、大学生を対象にした調査を通して、自分の名前に対する好嫌度が自己受容と密接に関連しており、自己受容に至る過程において、自分の名前の受容が重要な位置づけを占めること(宮沢, 1990)を見出している。佐藤(2001)も、名前に関する研究の不足を指摘した上で、名前は自己を構成する一部であり、自分の名前を自己の一部として受け入れ、自己の中に位置づけているかを測る評価指標を提示している。しかし、これらは自分の名前の受容評価が子どもの名づけにおいてどのように関連するかまでは至っておらず、両者の関連を探ることで名づけの過程や動機を明らかにする必要があると考える。

以上に加え、最後に、本研究で得られた結果を学校教育の現場へどのように活用できるかという点も踏まえる。冒頭で述べたように、生まれてきた子どもが固有の名前をもつことは「家族の一員」になったことを意味する。しかし、浅井(2015)が指摘するように、学校教育の中で、特に家庭科では家族という語を多用しているにもかかわらず、家族の一員になった証の名づけについて積極的に取り上げていない点が否めない。そこで本研究では、家庭科の授業で「家族の一員」を学ぶ際の具体的な手がかりとなるよう、本研究の結果から有益な可能性を見出すことを第3の目的とする。

2. 方法

1) 調査対象と調査時期

本調査では、鹿児島市内のA大学の教員養成系学部に通う青年期大学生を対象とした。質問紙は、2014年6月および2014年11月に、大学の講義時間の一部を用いて一斉に配布した。その際、調査への協力は任意であること、回答を拒否したり中断したりすることができること、個人情報特定できないようにするなど、倫理的配慮を行うことを伝えた。全部で225部を配布し、219部を回収した(回収率97.3%)。

2) 調査内容

(1) フェースシート：対象者の年齢、学年、性別を尋ねた。

- (2) **自分の名前をつけてくれた人**：自分の名前が誰によってつけられたか、名づけの人について、①両親、②祖父母、③親せき、④兄弟、⑤占い師、⑥わからない、⑦その他の7つの選択肢から回答を求めた。
- (3) **将来のわが子の名づけにおいて重視する側面**：阿辻・黒川（2008）が取り上げた名づけの要素を参考に15項目を作成した。子どもの性別（男児・女児）ごとに、各項目について「重視しない」「あまり重視しない」「やや重視する」「重視する」の4件法で評定を求めた。
- (4) **個性的な名前に対する考え**：個性的な名前をどのように考えているかについて、独自に15項目を作成し、「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」の4件法で評定を求めた。その際、回答者が個性的な名前を思い浮かべやすいように、その実例⁴を併せて示した。
- (5) **自分の名前に対する受容評価**：佐藤（2001）を参考に36項目を作成した。本研究では、姓ではなく名に対する内容を尋ねるため、「名前には、姓（上の名前）と名（下の名前）があり、ここでいう名前は、姓ではなく名のことを指します」という文章を添え、注意喚起を促した。各項目に対して、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「とてもそう思う」の4件法で評定を求めた。

3. 結果

1) 属性

回答者の学年としては、1年生16名（7.3%）、2年生49名（22.4%）、3年生74名（33.8%）、4年生80名（36.5%）であり、平均年齢は20.5歳（SD=1.12）であった。また、性別は男子92名（42.0%）、女子127名（58.0%）であった。

2) 名前をつけてくれた人

「あなたの名前は誰がつけましたか」という問いに対して、両親192名（87.7%）、祖父母9名（4.1%）、親せき2名（0.9%）、兄弟1名（0.5%）、占い師2名（0.9%）、わからない10名（4.5%）、その他3名（1.4%）で、回答者のほとんどが両親によって名づけられたことが分かった。

⁴ 実例として示したのは、昊空（そら）、心愛（ここあ）、希空（のあ）、希星（きらら）、姫奈（びいな）、七音（どれみ）、夢希（ないき）、愛保（らぶほ）、姫星（きてい）、匠音（しょーん）、美望（にゃも）、奇跡（だいや）、古奴（あんぬ）、祈愛（のあ）、男（あだむ）、頼音（らいおん）、夢露（めろ）、雅龍（がある）などである。なお、これらはスマホアプリ「赤ちゃん名づけ」を提供しているリクルーティングスタジオ株式会社が発表した2013年名前ランキングによるものである。

3) 名づけ側の性別による相違

(1) わが子（男児）の名づけにおいて重視する側面

「将来、あなたに男の子が生まれたら、何を重視して名前をつけたいか」という問いに対して、男女別に、各側面の平均値 (SD) を求めた。その結果、最も高い得点を示したのは、男子では「願いを込める」、女子では「文字 (漢字) の意味」であった。

また、名づける側の性別による差があるかどうかを検討するため、各側面ごとに *t* 検定を行った⁵。その結果、「音の響き」 ($t(217)=-1.99, p<.05$)、「文字 (漢字) のイメージ」 ($t(217)=-3.57, p<.001$)、「文字 (漢字) の意味」 ($t(217)=-2.52, p<.05$)、「好きな漢字を入れる」 ($t(217)=-2.05, p<.05$)、「姓名判断」 ($t(217)=-3.17, p<.01$)、「めずらしさ」 ($t(217)=-2.43, p<.05$)、「苗字とのバランス」 ($t(217)=-2.64, p<.01$) において、すべて男子よりも女子の得点が高かった (表1)。

表1 大学生におけるわが子（男児）の名づけで「重視」する側面の得点と *t* 検定の結果

側面	得点の平均値 (SD)		<i>t</i> 値
	男子学生	女子学生	
1. 音の響き	3.1(0.74)	3.3(0.60)	-1.99*
2. 文字 (漢字) のイメージ	3.2(0.76)	3.5(0.52)	-3.57***
3. 文字 (漢字) の意味	3.5(0.62)	3.7(0.48)	-2.52*
4. 呼び名 (ニックネーム) のつけやすさ	2.3(0.91)	2.3(0.86)	0.48
5. 両親や祖父母、兄弟の漢字や読みを入れる	1.8(0.96)	1.9(0.72)	-0.43
6. 文字数	2.6(0.96)	2.7(0.90)	-0.93
7. 画数	2.6(0.70)	2.8(0.71)	-1.16
8. 好きな漢字を入れる	2.5(0.70)	2.8(0.71)	-2.05*
9. 姓名判断	2.2(0.94)	2.6(0.84)	-3.17**
10. 尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる	1.8(0.05)	1.8(0.65)	-0.27
11. 読みやすさ	2.8(0.82)	3.0(0.65)	-1.90
12. めずらしさ	1.8(0.69)	2.1(0.77)	-2.43*
13. 苗字とのバランス	3.0(0.78)	3.3(0.66)	-2.64**
14. 流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる	1.3(0.50)	1.4(0.57)	-1.61
15. 願いを込める	3.6(0.65)	3.6(0.58)	-0.61

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

(2) わが子（女児）の名づけにおいて重視する側面

「将来、あなたに女の子が生まれたら、何を重視して名前をつけたいか」という問いに対して、男女別に、各側面の平均値 (SD) を求めた。その結果、最も高い得点を示したのは、男子では「願いを込める」、女子では「文字 (漢字) の意味」であった。

また、名づけ側の性別による差があるかどうかを検討するため、各側面ごとに *t* 検定を行った。その結果、「文字 (漢字) のイメージ」 ($t(217)=-2.68, p<.01$)、「文字 (漢字) の意味」 ($t(217)=-3.11$,

⁵ 分析に際しては IBM SPSS Statistics 24.0 を用いた。

$p<.01$)、「姓名判断」($t(217)=-2.95, p<.01$)、「苗字とのバランス」($t(217)=-2.04, p<.05$)において、すべて男子よりも女子の得点が高かった(表2)。

表2 大学生におけるわが子(女兒)の名づけで「重視」する側面の得点と t 検定の結果

側面	得点の平均値 (SD)		t 値
	男子学生	女子学生	
1. 音の響き	3.2(0.75)	3.5(0.57)	-1.72
2. 文字(漢字)のイメージ	3.2(0.75)	3.5(0.58)	-2.68**
3. 文字(漢字)の意味	3.4(0.65)	3.7(0.50)	-3.11**
4. 呼び名(ニックネーム)のつけやすさ	2.4(0.99)	2.4(0.87)	0.32
5. 両親や祖父母、兄姉の漢字や読みを入れる	1.7(0.87)	1.9(0.74)	-1.63
6. 文字数	2.6(1.00)	2.7(0.95)	-1.08
7. 画数	2.6(1.04)	2.8(0.94)	-1.68
8. 好きな漢字を入れる	2.5(0.89)	2.7(0.75)	-1.87
9. 姓名判断	2.2(0.96)	2.6(0.97)	-2.95**
10. 尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる	1.6(0.77)	1.7(0.70)	-0.76
11. 読みやすさ	3.0(0.80)	3.1(0.69)	-1.58
12. めずらしさ	1.9(0.83)	2.1(0.82)	-1.50
13. 苗字とのバランス	3.1(0.84)	3.3(0.68)	-2.04*
14. 流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる	1.3(0.56)	1.4(0.56)	-1.24
15. 願いを込める	3.6(0.67)	3.6(0.60)	-0.50

* $p<.05$, ** $p<.01$

(3) 個性的な名前に対する考え

個性的な名前に対する考えに関する15項目に対して、各項目の平均値において天井効果がみられた1項目を除き、因子分析(最沈法・プロマックス回転)を行った。その結果、共通性の低かった1項目および負荷量が.35に満たなかった1項目を削除し、再度因子分析を行った。固有値の減衰状況から2因子が妥当であると判断し、因子数を2に指定した。その結果、12項目から成る2因子(累積寄与率33.9%)が抽出された(表3)。

第1因子は、「響きがよい」「親しみやすい」「外国人にも呼びやすい」といった個性的な名前のメリットを表す項目で構成されており、【親しみやすさ】と命名した。第2因子は、「笑われる」「いじめられる」「受験や就職に不利になる」といった個性的な名前のデメリットを表す項目で構成されており、【他者からの差別や偏見】と命名した。各下位尺度の内的整合性を確認するため、クロンバック α 係数を求めたところ、【親しみやすさ】で.73、【他者からの差別や偏見】で.69であった。

名づける側の性別による相違を検討するため、下位尺度ごとにそれぞれの項目得点を合計した得点を算出し、 t 検定を行った。得点が高いほど、【親しみやすさ】【他者からの差別や偏見】が強いことを意味する。その結果、【親しみやすさ】【他者からの差別や偏見】のいずれにおいても、名づける側の性別による有意差は認められなかった。

表3 個性的な名前に対する考えの因子分析結果 (最尤法・プロマックス回転)

項目	因子負荷		
	F1	F2	
F1 【親しみやすさ】 ($\alpha=.73$)			
12. 響きが良い	.70	.05	
10. 親しみやすい	.69	-.06	
14. 印象が良い	.63	-.24	
6. 華やかである	.59	-.01	
8. 外国人にも呼びやすい	.48	.13	
1. 使っている漢字が良い	.43	.03	
3. 覚えやすい	.41	.25	
F2 【他者からの差別や偏見】 ($\alpha=.69$)			
2. 笑われる	.12	.78	
15. いじめられる	-.01	.59	
5. 受験や就職に不利になる	-.13	.53	
7. 文字の意味がよくない	.02	.53	
13. 性別がわからない	.22	.39	
	因子間相関	F1	F2
	F1	—	
	F2	-.43	—

4) 自分の名前に対する受容評価による相違

自分の名前に対する受容評価の36項目に対し、各項目の平均値において床下効果、天井効果がみられた3項目を除き、因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。固有値の減衰状況および因子の解釈可能性から3因子が妥当であると判断し、因子分析数を3に指定した。また、負荷量が.35に満たなかった4項目を削除し、再度因子分析を行い、最終的には表4に示す29項目から成る3因子(累積寄与率 41.7%)が得られた。

第1因子は、「自分の名前が好きである」「自分の名前にはよい印象があると思う」といった自分の名前に対する好意と、「自分の名前に満足している」「自分の名前の由来を気に入っている」といった自分の名前を受け入れ、心が満ち足りていることを表す項目から構成されていた。そのため、【好意的な受容】と命名した。第2因子は、「自分の名前は特徴的だと思う」「自分の名前にはオリジナリティがあると思う」といった自分の名前が他の人とは差別化された独自なものであることを表す項目から構成されており、【オリジナリティの自覚】と命名した。第3因子は、「自分と同じ名前の友達とは、仲良くなりやすい気がする」「自分と同じ名前の人をひいき目で見ってしまう」「自分と同じ名前の人に対して、運命的なものを感じる」といった名前を通して感じる心理的距離の近さやつながり感を表す項目から構成されており、【ホモフィリー⁶】と命名した。

各下位尺度の内的整合性を確認するため、クロンバック α 係数を求めた。その結果、【好意的な受容】で.89、【オリジナリティの自覚】で.88、【ホモフィリー】で.82であり、十分な値が得られた。

⁶ ホモフィリー (Homophily) とは、同じような属性をもつ人とつながろうとする傾向のことを指す。同質性とも呼ばれる。

表4 自分の名前に対する受容評価の因子分析結果（最尤法・プロマックス回転後）

項 目	因子負荷			
	F1	F2	F3	
F1 【好意的な受容】（$\alpha=.89$）				
33. 自分の名前が好きである	.76	.43	.03	
12. 自分の名前にはよい印象があると思う	.75	-.03	-.06	
11. 自分の名前は響きがいいと思う	.70	-.07	-.05	
17. 自分の名前には明るいイメージがあると思う	.70	.01	.07	
36. 自分の名前に満足している	.69	-.04	.02	
9. 自分の名前の由来を気に入っている	.68	.05	-.04	
10. 自分の名前には親の期待が込められていると思う	.59	.05	-.12	
16. 自分の名前は自分に合っていると思う	.59	.01	.06	
6. 自分の名前には深い意味が込められていると思う	.56	.15	-.07	
22. 自分の名前は他人の名前より見劣りすると思う（逆）	.56	-.05	.23	
7. 自分の名前にはよい意味の漢字が使われていると思う	.54	-.06	-.01	
8. 自分の名前の由来を知っている	.50	-.02	.04	
18. 自分の苗字よりも名前のほうが呼びやすいと思う	.49	-.11	.03	
13. 自分の名前を人が覚えてくれていると嬉しい	.48	-.02	.00	
19. 自分の苗字よりも名前のほうが大事である	.45	.03	-.13	
21. 自分の名前は古臭いと思う（逆）	.38	-.03	.01	
20. 友達に、苗字よりも名前で呼ばれることが多いと思う	.37	.05	.04	
F2 【オリジナリティの自覚】（$\alpha=.88$）				
2. 自分の名前は特徴的だと思う	-.08	.92	.03	
3. 自分の名前にはオリジナリティがあると思う	.09	.83	.04	
1. 自分と同じ名前の人はかなりいると思う（逆）	-.20	.74	.07	
5. 自分の名前は人の目を引くと思う	.09	.73	-.02	
4. 自分の名前は面白い名前だと思う	.06	.71	-.11	
F3 【ホモフィリー】（$\alpha=.82$）				
30. 自分と同じ名前の友達とは、仲良くなりやすい気がする	.03	.08	.77	
28. 自分と同じ名前の人をひいき目で見てしまう	.11	-.03	.69	
27. 自分と同じ名前の人に対して、運命的なものを感じる	.01	-.07	.65	
29. 自分の名前と同じ漢字が含まれる名前に親しみを感じる	.01	.03	.64	
26. 自分と同じ名前の人が新聞やテレビに登場すると得意げになる	-.08	.09	.60	
24. 自分と同じ名前の人に出会えると嬉しい	-.09	-.02	.59	
25. 自分と同じ名前の人が身近にいと、その相手を意識してしまう	.10	-.02	.53	
	因子間相関	F1	F2	F3
	F1	—		
	F2	.42	—	
	F3	-.27	-.31	—

(逆) 逆転項目

次いで、逆転項目が含まれている場合は逆転項目処理を行い、下位尺度ごとにそれぞれの項目得点を合計した得点を算出した。得点が高いほど、【好意的な受容】【オリジナリティの自覚】【ホモフィリー】が高いことを意味する。

(1) わが子（男児）の名づけにおいて重視する側面

自分の名前に対する受容評価による差の検討を行うため、わが子（男児）の名づけにおいて重視する側面に対し、各下位尺度の合計得点をそれぞれの平均値に基づき2群（高・低）に分け、*t*検定を行った（表5）。

【好意的な受容】については、「文字（漢字）のイメージ」（ $t(205)=-3.83, p<.001$ ）、「文字（漢字）の意味」（ $t(204)=-4.27, p<.001$ ）、「読みやすさ」（ $t(205)=-2.19, p<.05$ ）、「願いを込める」（ $t(205)=-3.38, p<.01$ ）において、低群よりも高群の得点が高かった。しかし、「流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる」（ $t(205)=1.82, p<.10$ ）においては、高群よりも低群の得点が高かった。

【オリジナリティの自覚】については、高・低群における合計得点の差が認められなかった。

【ホモフィリー】については、「文字（漢字）のイメージ」（ $t(191)=-2.30, p<.05$ ）、「文字（漢字）の意味」（ $t(190)=-2.02, p<.05$ ）、「両親や祖父母、兄姉の漢字や読みを入れる」（ $t(191)=-2.21, p<.05$ ）、「好きな漢字を入れる」（ $t(190)=-2.52, p<.05$ ）、「姓名判断」（ $t(191)=-2.91, p<.01$ ）、「尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる」（ $t(190)=-3.33, p<.01$ ）、「流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる」（ $t(191)=-3.02, p<.01$ ）において、低群よりも高群の得点が高かった。

表5 自分の名前に対する受容評価の各下位尺度におけるわが子（男児）の名づけで重視する側面の得点と*t*検定の結果

側面	自分の名前に対する受容評価の下位尺度								
	「好意的な受容」			「オリジナリティの自覚」			「ホモフィリー」		
	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値
1. 音の響き	3.1 (0.65)	3.2 (0.70)	-1.39	3.2 (0.62)	3.2 (0.73)	0.13	3.1 (0.70)	3.2 (0.64)	-0.84
2. 文字（漢字）のイメージ	3.2 (0.67)	3.6 (0.59)	-3.83***	3.4 (0.62)	3.5 (0.67)	-1.36	3.3 (0.75)	3.5 (0.56)	-2.30*
3. 文字（漢字）の意味	3.5 (0.59)	3.8 (0.47)	-4.27***	3.5 (0.55)	3.7 (0.53)	-1.66	3.5 (0.61)	3.7 (0.51)	-2.02*
4. 呼び名（ニックネーム）のつけやすさ	2.3 (0.86)	2.2 (0.89)	0.44	2.4 (0.90)	2.2 (0.83)	1.60	2.2 (0.91)	2.4 (0.87)	-1.46
5. 両親や祖父母、兄姉の漢字や読みを入れる	1.8 (0.76)	1.9 (0.87)	-1.41	1.8 (0.88)	1.9 (0.78)	-0.88	1.7 (0.83)	2.0 (0.82)	-2.21*
6. 文字数	2.7 (0.84)	2.7 (0.99)	0.07	2.6 (0.95)	2.7 (0.94)	-0.50	2.5 (1.02)	2.7 (0.84)	-1.54
7. 画数	2.7 (0.88)	2.7 (1.03)	0.08	2.6 (0.95)	2.8 (1.00)	-1.71	2.6 (1.07)	2.8 (0.88)	-0.94
8. 好きな漢字を入れる	2.6 (0.70)	2.7 (0.71)	-1.72	2.7 (0.75)	2.7 (0.69)	-0.50	2.6 (0.78)	2.8 (0.62)	-2.52*
9. 姓名判断	2.6 (0.88)	2.4 (0.92)	1.18	2.4 (0.90)	2.5 (0.93)	-1.22	2.2 (0.99)	2.6 (0.80)	-2.91**
10. 尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる	1.8 (0.68)	1.7 (0.77)	0.82	1.8 (0.72)	1.8 (0.83)	0.40	1.6 (0.74)	2.0 (0.75)	-3.33**
11. 読みやすさ	2.8 (0.71)	3.0 (0.76)	-2.19*	3.0 (0.67)	2.9 (0.81)	0.09	2.9 (0.85)	3.0 (0.66)	-1.37
12. めずらしさ	1.9 (0.64)	2.1 (0.84)	-1.69	1.9 (0.77)	2.1 (0.73)	-2.64	1.9 (0.76)	2.0 (0.75)	-1.42
13. 苗字とのバランス	3.2 (0.62)	3.2 (0.83)	-0.33	3.2 (0.72)	3.2 (0.72)	-0.20	3.1 (0.80)	3.3 (0.67)	-1.66
14. 流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる	1.4 (0.57)	1.3 (0.51)	1.82†	1.4 (0.58)	1.3 (0.50)	0.11	1.2 (0.44)	1.5 (0.60)	-3.02**
15. 願いを込める	3.4 (0.74)	3.7 (0.57)	-3.38**	3.5 (0.62)	3.7 (0.61)	-1.77	3.5 (0.71)	3.7 (0.51)	-1.62

†*p*<.10, **p*<.05, ***p*<.01, ****p*<.001

(2) わが子（女兒）の名づけにおいて重視する側面

自分の名前に対する受容評価による差の検討を行うため、わが子（女兒）の名づけにおいて重視する側面に対し、各下位尺度の合計得点をそれぞれの平均値に基づき2群（高・低）に分け、*t*検定を行った（表6）。

【好意的な受容】については、「音の響き」（ $t(205)=-2.41, p<.05$ ）、「文字（漢字）のイメージ」（ $t(205)=-4.83, p<.001$ ）、「文字（漢字）の意味」（ $t(205)=-3.82, p<.001$ ）、「読みやすさ」（ $t(205)=-2.22, p<.05$ ）、「願いを込める」（ $t(205)=-3.68, p<.001$ ）において、低群よりも高群の得点が高かった。

【オリジナルティの自覚】については、「文字（漢字）のイメージ」（ $t(197)=-2.12, p<.05$ ）、「画数」（ $t(197)=-2.09, p<.05$ ）、「めずらしさ」（ $t(197)=-2.68, p<.01$ ）において、低群よりも高群の得点が高かった。

【ホモフィリー】については、「文字（漢字）のイメージ」（ $t(191)=-2.82, p<.01$ ）、「文字数」（ $t(191)=-2.21, p<.05$ ）、「姓名判断」（ $t(191)=-3.01, p<.01$ ）、「流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる」（ $t(191)=-2.26, p<.05$ ）において、低群よりも高群の得点が高かった。

表6 自分の名前に対する受容評価の各下位尺度におけるわが子（女兒）の名づけで重視する側面の得点と*t*検定の結果

側 面	自分の名前に対する受容評価の下位尺度								
	「好意的な受容」			「オリジナルティの自覚」			「ホモフィリー」		
	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値	低群 平均 (SD)	高群 平均 (SD)	<i>t</i> 値
1. 音の響き	3.2(0.61)	3.4(0.66)	-2.41*	3.3(0.62)	3.3(0.67)	0.11	3.2(0.73)	3.4(0.56)	-1.49
2. 文字（漢字）のイメージ	3.2(0.69)	3.6(0.57)	-4.83***	3.3(0.66)	3.5(0.65)	-2.12*	3.2(0.74)	3.5(0.59)	-2.82**
3. 文字（漢字）の意味	3.4(0.57)	3.7(0.54)	-3.82***	3.5(0.57)	3.6(0.58)	-1.43	3.5(0.63)	3.6(0.53)	-1.97
4. 呼び名（ニックネーム）のつけやすさ	2.3(0.85)	2.4(0.99)	-0.74	2.4(0.89)	2.5(0.93)	-0.15	2.3(0.93)	2.5(0.93)	-1.32
5. 両親や祖父母、兄弟の漢字や読みを入れる	1.6(0.70)	1.8(0.86)	-0.06	1.8(0.85)	1.7(0.72)	0.37	1.7(0.80)	1.9(0.80)	-1.38
6. 文字数	2.7(0.87)	2.6(1.04)	0.58	2.6(0.93)	2.7(1.00)	-0.97	2.5(1.02)	2.8(0.92)	-2.21*
7. 画数	2.8(0.88)	2.7(1.08)	0.65	2.6(0.98)	2.9(1.02)	-2.09*	2.6(1.08)	2.8(0.94)	-1.05
8. 好きな漢字を入れる	2.5(0.77)	2.7(0.84)	-1.80	2.6(0.78)	2.6(0.84)	-0.49	2.5(0.90)	2.7(0.74)	-1.51
9. 姓名判断	2.5(0.96)	2.3(1.01)	1.00	2.4(0.99)	2.5(1.03)	-0.54	2.2(1.04)	2.6(0.91)	-3.01**
10. 尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる	1.7(0.71)	1.5(0.72)	1.35	1.6(0.69)	1.6(0.78)	-0.10	1.5(0.76)	1.7(0.75)	-1.56
11. 読みやすさ	2.9(0.75)	3.2(0.75)	-2.22*	3.0(0.66)	3.1(0.83)	-0.52	3.0(0.85)	3.1(0.70)	-1.69
12. めずらしさ	2.0(0.76)	2.0(0.87)	-0.51	1.9(0.80)	2.2(0.84)	-2.68**	1.9(0.80)	2.1(0.85)	-1.79
13. 苗字とのバランス	3.1(0.56)	3.3(0.85)	-1.02	3.2(0.74)	3.2(0.79)	-0.81	3.1(0.84)	3.3(0.73)	-1.61
14. 流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる	1.4(0.57)	1.3(0.56)	1.73	1.4(0.61)	1.3(0.53)	0.11	1.2(0.45)	1.4(0.65)	-2.26*
15. 願いを込める	3.5(0.70)	3.8(0.51)	-3.68***	3.6(0.65)	3.7(0.63)	-1.02	3.5(0.74)	3.7(0.53)	-1.52

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

(3) 個性的な名前に対する考え

自分の名前に対する受容評価と個性的な名前に対する考えの関連を探るため、各下位尺度の合計得点間の相関分析を行った。その結果、【ホモフィリー】においてのみ、【親しみやすさ】（ $r=.18, p<.01$ ）および【他者からの差別や偏見】（ $r=.20, p<.01$ ）との間に正の相関がみられた。

4. 考察

本研究では、近い将来親になりうる大学生を対象に、子どもの名づけにおいて何を重視するのか、また個性的な名前をどのように捉えるのかについて、名づける側の性別および自分の名前に対する受容評価との関連から検討した。名づけにおいて何を重視するかについては、名づける側の性別および自分の名前に対する受容評価の両方とも関連がみられた。具体的に、名づける側の性別からは、子どもの性別を問わず、男子は「願いを込める」を、女子は「文字（漢字）の意味」を最も重視していることが明らかになった。徳田・水野・西館・西村・安心院・大越（2013）は、幼い子どもをもつ母親を対象に、2003年と2012年の二度にわたって同様の調査を行い、名づけにおいて重視する側面の変遷を確認した。その結果、2003年では「音の響き」を最も重視していたが、2012年においても同じく「音の響き」を最も重視していたという。しかし、本研究の結果は、今後は名づけで最も重視する側面が変わっていく可能性を窺わせるものであった。特に、漢字は表意文字としてそれぞれ意味をもち、字形が加わって表情性に富んでいる（永野，1959）。それ故に名前の有する語意、さらにはその語に籠もる霊的意味合いが子どもに影響を及ぼし（田中，2001）、その子どもをしてそのようにさせてしまうと信じ（たとえば、「健」という字のもつ健やかな意がその子を包み込んで、健康に育つことを願うなど）、願ってその実現を望むのは、地名などとは異なる人名の根幹といえるものであるが、これから親になる世代にはその傾向がさらに高まっていくことが予想される。

また、男子に比べると女子の方が子どもの名づけに重視する側面が多いことが明らかになった。金・永迫（2020）は、同じく将来親になりうる大学生の調査を通して、男子よりも女子の方が子どもや子育てに係る知識への関心が高いことを報告しているが、本研究の結果からも女子の方が将来に子どもが生まれてくることをイメージしやすく、名づけの様々な側面を重視したこだわりをもちやすいことが推測される。しかも、女子は、女兒よりも男児に対して重視する側面がやや多く、男児の名づけに対してはよりこだわりをもちやすいことが窺える。

自分の名前に対する受容評価との関連については、概ね【好意的な受容】および【オリジナリティの自覚】【ホモフィリー】の低群よりも高群の方が、子どもの名づけに重視する側面が多くなることが明らかになった。【好意的な受容】では、自分の名前を好意的に受け入れている人ほど、子どもの性別を問わず、名づけにおいて「文字（漢字）のイメージ」「文字（漢字）の意味」「読みやすさ」「願いを込める」などを重視していた。このことについては、自分の名前を受容している人、すなわち自分の名前と向き合い、自己の一部として受け入れている人は、宮沢（1990）が指摘した自己受容ができるだけでなく、名づける側として自分の子どもの名づけに対しても様々な側面から向き合うことができると考えられる。その反面、自分の名前を好意的に受け入れていない人ほど、男児の名づけにおいては、「流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる」ことを重視していた。自分の名前を好まず、受け入れられない不安定さを世の流行として広く受け入れられている漢字や読みを託す形で解消しようとしているのかもしれない。次に、【オリジナリティの自覚】では、自分

の名前にオリジナリティがあると評価する人ほど、女兒においてのみ、「文字（漢字）のイメージ」「画数」「めずらしさ」を重視していることが明らかになった。ありふれていない、他者との弁別性に富む、型にはまらず、この名前は自分だけのものだという誇りや喜びへの自覚は、これらの側面を重視することで、女兒を通じて受け継がれていくと考えられる。【ホモフィリー】では、自分と同じ名前をもつ人とつながろうとする傾向が強い人ほど、子どもの性別を問わず、名づけにおいて「文字（漢字）のイメージ」「姓名判断」「流行りのマンガやキャラクターの漢字や読みを入れる」ことを重視していた。これらに加え、男児においては、女兒にはみられなかった「両親や祖父母、兄姉の漢字や読みを入れる」「尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れる」ことを重視していることも明らかになった。太田・石野（2010）は、男児には周りから家（イエ）を維持繁栄させてほしいという期待がかけられていると指摘し、こうした期待は姓を契機として、家族や親族、同姓他者に対する情緒的なヨコのつながり、さらには上位世代に対するタテのつながりを求める態度に反映されると指摘している。本研究の結果をこの知見に照らし合わせると、興味深いことに、自分と同じ名前をもつ人とつながろうとする傾向が強い人ほど、男児の名づけに対しては、家族や親せきの漢字や読みを入れたり、尊敬する人や有名人の漢字や読みを入れることで、情緒的なヨコのつながりや上位世代に対するタテのつながりを求めようとするのが推測される。

他方で、個性的な名前に対する考えについては、【親しみやすさ】といった肯定的な見方と【他者からの差別や偏見】といった否定的な見方の2つの方向性が示された。また、これらに対しては、名づける側の性別との関連ではなく、むしろ自分の名前に対する受容評価との関連がみられた。具体的には、【ホモフィリー】が高い人ほど、個性的な名前に対して【親しみやすさ】があると考えますが、同時に【他者からの差別や偏見】があるとも考えることが明らかになった。このことは、一見矛盾するよう見えるが、いい換えれば、自分と同じ名前をもつ人とつながろうとする傾向が強い人ほど、他者との関わりの中で名前を意識しやすく、他者と親しくなれるか、反対に遠ざかれるかといった対人心理的距離感をより重視していると考えられる。そのため、自分の名前に対する受容評価との関連からすると、個性的な名前に対する賛否世論は今後も続くことが予想される。

最後に、名前は那人らしい固有性を示すものでありながら、家族の一員になったことを意味する重要な役割をもつ。学校教育では、小学校家庭科および中学校技術・家庭科家庭分野（以下、中学校家庭科）において家族に関する内容を取り扱うが、名づけとの関連から「家族の一員」の意味を深く取り上げていない。そこで、本研究で得られた結果を活用すると、小学校家庭科では自分の名前をつけてくれた人や、何を重視して名づけられたかを調べる活動を通して、固有の名前をもつことで自分が家族の一員になった実感を抱かせるとともに、その意味を理解させることができると考えられる。中学校家庭科では、子どもが生まれ、親になることは名づけられた者から名づける者へと立場が変わることを意識させ、自分の名前に向き合うことや名づけにおいてどういう側面を重視するかを家族で話し合うことで家族理解につながることを意識させるなど、「家族の一員」の意味

を名づけを通して深めていくことができる可能性が考えられる。今後は小・中学校家庭科の授業実践において、本研究の結果を活かした効果的な教材作りおよび授業展開などを行い、その有効性を検証していくことが課題であろう。

引用文献

- 浅井由美 2015 神戸海星女子学院大学研究紀要 (54) pp.45-50
- 阿辻哲次・黒川伊保子 2008 『赤ちゃんの幸せ名づけ事典』 ナツメ社
- ウンサーシュッツ ジャンカラー 2017 名前に鑑みる家族関係—名前の由来に関する一考察—
立正大学心理学研究年報 (8) pp.39-50
- 小股憲明・乾 恵子・高島克己 2017 日本人100年の名づけ—伝統的な名づけとキラキラネームの類似と相違— 大阪芸術大学短期大学部紀要第41号 pp.77-97
- 太田洋介・石野陽子 2010 苗字に関する態度と自我同一性、家族アイデンティティ、および伝統的家族観との関連—大学生における苗字の役割とその性差の心理学的研究— 島根大学教育学部紀要第44巻 pp.89-103
- 大山 正・櫻坂英子・鎌田晶子・元木芳子・車 貞瑛 2011 男女の名前に現れた語音象徴—国際比較— 日本心理学会第75回大会発表論文集 p.847
- 金 娟鏡・永迫彩花 2020 青年期のための「子育て」ガイドブック作りへの提案—生活者としての視点を取り入れて— 鹿児島大学教育学部研究紀要第71巻 pp.69-80
- 小林康正 2009 『名づけの世相史—「個性的な名前」をフィールドワーク』 風響社
- 高本條治 2003 名前の読み方今昔物語—「名乗り」について (特集1日本人の名前と漢字) 月刊にしか14 (7) pp.28-33
- 田中宣一 2001 「名づけ」と「名のり」—命名研究の一視点— 日本常民文化紀要 (22) pp.45-74
- 徳田克己・水野智美・西館有沙・西村実穂・安心院朗子・大越和美 2013 名づけの心理—3~10年前の調査結果との比較— 日本教育心理学会第55回総会発表論文集 p.296
- 佐久間 英 1963 「名づけ」親子問答—姓から名へ、名から姓へ 言語生活 (138) pp.44-51
- 佐藤 純 2001 名前の自己評価と自己受容の関係 日本性格心理学会大会発表論文集10 pp.124-125
- 宿利由希子 2017 個人名に対する印象と人物像の整合性について 日本認知科学会34回大会 pp.902-907
- 永野 賢 1959 子どもの名づけの心理 言語生活 (92) pp.38-46
- 松王政浩 1990 本質と存在の問題—ライブニッツ形而上学をめぐる— 実践哲学研究 13 pp.31-50

- 宮沢秀次 1989 自己の「名前」についての意識 名古屋経済大学・市邨学園短期大学人文科学論
集43 pp.293-312
- 宮沢秀次 1990 自己の「名前」についての意識と自己受容性の関係 日本教育心理学会第32回総
会発表論文集 p.251
- 荻原祐二 2015 近年の日本における個性的な名前の特徴とその類型 人間環境学研究 13(2)
pp.177-183
- 半田淳子 2013 名づけ事典に見られるジェンダーの特徴—親が子どもに期待すること— 日本
研究のフロンティア pp.31-40
- 平山亜紀 2011 名づけの変遷—人名用漢字と読みの相関に注目して— 文化環境研究5
pp.38-46

付記

調査にご協力くださいましたA大学の学生の皆様に感謝申し上げます。